

# 悪夢の現実化

— 地政学的状況は一変した —

## 【悪夢の現実化】

9月3日、北朝鮮が6回目の核実験を強行した。

金正恩はついに水爆を手に入れた。「米国の完全敗北をあらためて宣告し、最強国に堂々と登り詰めた」。4日の朝鮮労働党機関紙・労働新聞（電子版）は大陸間弾道ミサイル（ICBM）に搭載する水爆実験の成功を大々的に報じた。

金正恩委員長が署名した核実験命令書の写真や、米国を当てこする金己男（キム・ギナム）副委員長の談話などが掲載された。これは、東アジアの地政学的バランスが崩壊した事を意味する。

欧州では、英仏の核とロシアの核でバランスされ、東アジアではロシア、中国と米国の核がバランスされていた。

ポイントは、いずれも国連の常任理事国であり、互いに拒否権を持っていたという事である。陰に陽に対立しながらも、互いに牽制しあう5大国は、それでも最終的手段を使わずバランスされていた、といえる。

しかし、北朝鮮が核を持つという事は、このバランスが崩壊したことを意味する。日本、米国にとっては悪夢が現実化したといえる。

【遺言】

北朝鮮の核・ミサイル強化は正恩氏の祖父、金日成時代に遡る。

先軍政治を掲げた金正日総書記時代を経て、正恩体制で一気に加速した。「核を捨てれば、米国に騙されて、イランやリビアのようになる」。これは北朝鮮当局者 — いや、反米主義者の共通認識といっていい。実際、米国は基準の無い第三国への攻撃を繰り返して来たという過去がある。イランに、核施設は無かった。

「合法的な核保有国になり、朝鮮半島で米国の影響力を無くせ」。金正日の遺書だ。経済力も持続的な戦争継続力もなく、中国もロシアの軍事的支援も完全に信用出来ないとすれば、自ら決定的兵器を持つしかない。そういう強固な意思で、北朝鮮は核を持ったのだ。

【低次元兵器すら生きる、破壊しても被害は甚大】

水爆は、桁違いの破壊力がある。

つまり、今の技術力で飛ぶミサイルが正確でなくても十分に脅威になってしまう。従って迎撃しても、無意味になるリスクが高い。

更に、上空の高いところで爆発させたとしても、それはEMP（電磁パルス）を引き起こす。

この強力なEMPは雷の数千倍ともされる。それほど強力なEMPが何を引き起こすか。WSJ（ウォールストリートジャーナル）によれば、防空システムにも影響を及ぼし、何週間も停電が復旧できない。何故なら、2008年に米議会に提出された、米国のインフラストラクチャの電磁パルス攻撃からの脆弱性に関する

るレポートによると、この攻撃で送電線、通信、金融取引インフラ、石油産業、輸送インフラ、食品、水道、救急サービス、宇宙衛星、政府機関などへの深刻な影響が懸念されているからだ。

こうしたライフスタイルの基本的なサービスが、電磁パルスのために同時にダウンし、パニックの状況に陥りリスクがある。

グローバルなサプライチェーンの構築によって、多くのインフラ部品は既に先進国では作られていない — つまり輸入に頼らざるを得ず、復旧には時間が掛かる。

その上、水道、食料、ガソリン、通信網、金融システムは「長期に渡る停電が起きない」という前提の上で設計されているので、それが起こればサプライチェーンが機能不全に陥いる。

つまり、3.11 の状態が長期化し、それが首都圏にも起こるの  
だと考えれば、本邦も他人事ではない。

しかも、北朝鮮は既に、火星 5 号のスペックで、自衛隊のMD（ミサイル防衛）システムでは追従出来ないような大気圏突入スピードを実現している。時ここに至っては、専守防衛などは夢物語となってしまった。

## 【最終的解決へ決断か】

クリントン政権は、1994 年の第 1 次核危機で、一時は北朝鮮の核施設への限定的空爆を検討していた。しかし、結局韓国政府の反対もあって、最終的には対話に転換。核開発の凍結と経済支援を組み合わせた「米朝枠組み合意」をまとめた。

しかし、2003年に北朝鮮が核拡散防止条約（NPT）からの脱退を表明。米朝の枠組み合意は完全に崩壊した。

今度は北朝鮮が核放棄を約束する代わりに、米国が攻撃や侵略を意図しないと確認する6カ国協議の共同声明をまとめたが、米国による金融制裁に北朝鮮が反発。共同声明は反古にされた。

オバマ前大統領は「戦略的忍耐」を掲げ、核放棄に向けた北朝鮮の自主的な取り組みを待った。

しかし「核」を過小評価しすぎた結果、北朝鮮に開発の時間を稼がせてしまった。

「ブッシュ、オバマ両政権は北朝鮮が崩壊するのは時間の問題と考えていた」(ウィリアム・ペリー元国防長官)から、タカをくくっていたのだ。

トランプ政権も誤算だらけといえる。

大統領就任時、米国本土に届く核弾頭を積んだ I C B M の完成には約 2 年のはかかるとみていた。

北朝鮮に中国任せの対応が見透かされ、米国が軍事行動に踏みきる「レッドライン」(越えてはならない一線)の一つとみられてきた核実験を許した。いくら twitter で吠えても、負け犬の遠吠えにしか聞こえない — 少なくとも現時点では。

総ての希望的観測が崩壊した現在、米国の選択肢は限られて来ている。最終的解決までの決断の時間は、短いと考えた方が良いでしょう。

そうでなければ、日米は新たな恐怖の均衡で生きて行く事となるだろう。

# テクニカル

北朝鮮、為替に警戒

北朝鮮リスクの高まりや、円高が進む中、日経平均株価は8月安値を更新して引けた。これは一転して弱気に転じたことを示す。この時点でロングはストップが入り、今後は戻り売りを狙う相場となった。ただ、ドル円が4月17日につけた年初来安値108円11銭を先週割り込んだものの、日経平均は同日に付けた年初来安値18,222をはるかに上回って推移している。これはGPIFの買い支えもあるが、週明け、ドル円相場の下落が止まらない場合、さすがに4月安値に接近してこよう。株価がドル円の下落に後から追従してくる形になる。その前に円高が収まれば、買い支えも効いてくることになるだろうが、現段階では期待薄。

以前参考にしていただいていたフォーメーションからは下値目処を18,947と算出したが、今週もドル円の下げが続くようであれば、その目標値、さらに次の窓埋め(18,648～18,840)にかかろう。

特に北朝鮮が何らかの挑発的な行動に出るようであれば、週明けからドル円急落、日経平均も追従して19,000円割れが現

実味を帯びる。先週「日経平均がマドを埋めて(19,679以上)引けて来れば、強気トリガーとなる」とコメントしたが、9月1日の引け値が19,691。しかし、翌日ギャップダウンして強気トリガーに失敗した。現在は全ての強気トリガーが否定された。

9月9日の北朝鮮の建国記念日前後はかなり警戒されている。何らかのアクションと共に、週明け円高が加速すれば、18,000円台に入ってくるだろう。今週は一転して週明けからは売りを狙いたい。ストップは19,692以上の引け値に設定。



## 今週の必読押し 依然弱気ダイバージェンス

当欄ではユーロドルの売りを推奨。テクニカル面から先週次の通り述べた“日足、週足共に、実勢相場はスローストキャスティクスと弱気オシレーターダイバージェンスの関係になっている。またチャートパターン並びに23日移動平均が1.18付近に重なっている。この値位置を引け値で割り込むと上記の下降相場が始まるだろう。その場合、想定される下げ幅は1月3日の安値から先週の高値までの上げ幅までを勘案して1.1409±0.0078。それをも下回るなら1.1205±0.0102という数字が出て来る。ただ日足にはその手前の1.1530～1.1550付近、週足では1.1680～1.1700付近に下値サポートが存在。この付近で一度、相場は値固めに入るかも知れない。故に短期は29日高値を引け値で上回ったところにストップロスを入れて売りを推奨したい”。米国でのハリケーン、北朝鮮問題、FRB問題等々の不安要素でドルが売られ、ユーロは買われ、相場は先週末に

1.2091まで上昇。しかしそこから利益確定の売りが出て、1.2034で週の取引を終える。8月29日の高値1.2069は更新されたが、引け値ベースでは上回っていない。弱気ダイバージェンスの状態も依然として続いている。

先週“過去、この相場は2015年3月13日の1.0461から同年8月24日の高値1.1705を経て、同年12月3日の安値1.0538まで38週間かかった例がある”と述べたが、ユーロ/ドルの日柄は1月3日の1.0341を起点に今週は36週目。必ずしも2015年と同パターンになるとは限らないが、上げの日柄は既に限界の領域に入っており、今週も先週の方針を踏襲し、8月29日の高値以上の引け値にストップロスを入れて売り方針とする。

ただ、もしストップアウトした場合は1.2250を利食いも目標に損切りドテン買いとしたい。その際、引け値で23日移動平均を割り込んだらストップアウトし損切ドテン売りに転換する。ストップロスポイントはその時つけている最高値以上の引け値に置きたい。恐らく、高値から2～3週間の下げ相場が想定される。今週は2段階で目先の相場に臨みたい。

投資日報presents 株式限定勉強会

【2017年 秋季勉強会】

— 来年に向け、如何に儲けるか —

年四回開催している弊社勉強会のスピンオフ企画を開催します。マクロとミクロの両面から株式市場の現状と展望を解説します

(第1部登壇講師の都合上、DVDの撮影・販売はございません)

講師

<第1部>

【ミクロ編】

優待取り扱い株と小型株の発掘

<第2部>

【マクロ編】証券相場の回顧と展望

日時

9月23日(土)13:00～16:00

会場

貸会議室日本橋清新丹

東京都中央区日本橋人形町1-4-10 人形町センタービル2階

参加費

8,000円(税込)

※お申込み手数料等はお客様負担となります。

株式会社投資日報社 代表取締役 鍋木 高明

■ 詳細・お申し込みはこちら

(株)投資日報社 電話: 03-3669-0278

http://www.toushinippou.co.jp/

東京都中央区日本橋人形町3-12-11GRANDE人形町6階

<セミナー>内【株式限定勉強会】よりお申し込みください

フォーキャストのその先へ 2017年ファイナル

【2017年 秋季勉強会】

— 来年に向け、如何に儲けるか —

四半期ごとに年4回開催しているこの勉強会。今年最後の勉強会では、これまでにお伝えできなかった事象も含め、従来よりも2倍「有用」にして「重要」な内容を皆様にお伝えします!

講師

<第1部>

マーケットクロスオーバー Vol.2

金融経済アナリスト 神成 厚至

<第2部>

年後半の儲けの機会を探る

日時

10月28日(土)13:00～17:00

会場

貸会議室日本橋清新丹

東京都中央区日本橋人形町1-4-10 人形町センタービル2階

参加費

<懇親会なし> 14,040円(税込)

<懇親会あり> 18,040円(税込)

※お申込み手数料等はお客様負担となります。

株式会社投資日報社 代表取締役 鍋木 高明

■ 詳細・お申し込みはこちら

(株)投資日報社 電話: 03-3669-0278

http://www.toushinippou.co.jp/

東京都中央区日本橋人形町3-12-11GRANDE人形町6階

<セミナー>内【2017年秋季勉強会】よりお申し込みください

ユーロドル相場(日足)

23日 終値単純 MA=1.1851

99日 終値単純 MA=1.1980

弱気オシレーターダイバージェンス

015日 %K (終値)=84.1867 003日 %D=76.8617 003日 単純 SlowXO=88.8329

今週の相場風林語録

病は口より入り、禍いは口より出ず

暴飲暴食は病の元。禍いは不用なことをしゃべったりすることによって起こりやすい。相場している時は特に心がける。



今週の**九星★波動** 《一白水星》は「陰極」

南雲 紫蘭

時間稼ぎをされているうちに、とうとう核保有国となってしまった北朝鮮。特に水爆実験の成功はかなり画期となりやすい可能性があります。今までの通常兵器であれば、そもそも爆破力が小さいとされ、逆に正確性が大切でしたが、水爆ともなるとそもそも「持っているだけ」で強く、さらに正確性も必要ではなくなります。

つまり、米国まであまり正確ではない！CBMでも「どこかに落ちさえすれば致命的な爆発力となる」（軍事評論家）上に、たとえ空中で破壊することが成功したとしても、成層圏内であれば太平洋は死の海となり、宇宙空間であったとしても、深刻な電磁波破壊によって日米の多くのライフラインは崩壊するとされています。要するに、何をしても北朝鮮が水爆を持ったということは非常に大きな事件であったといえます。

地政学的リスクというよりは、核による軍事バランスの崩壊

## 相場指南道場

## トレーダーあすなろ物語 (411)

中原 駿

上野は、ブローカーを2社に絞った。

特に秘密保持に関してはこの時代としては信用できる人間であった。

しかし、そうはいってもやはりプロのマーケットなので、売買自体が信用供与という部分から、事前に相手は自分のネーム、つまり銀行名を知られてしまうのであった。

この時代、大きなプレイヤーは証券会社、銀行などがあつたが、証券会社は信用力が低いので、ネームとしてはあまりよくなかった。

一方、銀行はたとえ日本の地方銀行であっても、この時代は「グッドネーム」、つまり高い信頼性がある、とされていた。

## 第六感の



## ボトム打ち失敗

テクニカルアナリスト 葛城 北斗

## 保合い下抜け

ドル円相場は先週、ついに4月安値を下回った。先週は「おそらく1年サイクルボトムはこの4月で付けた可能性が高まった。ボトム時間の許容範囲として8月いっぱいまでであると述べてきたが、先週の安値が4月安値に対するダブルボトムになったようだ」と述べたが、残念ながらこの予想は外された。

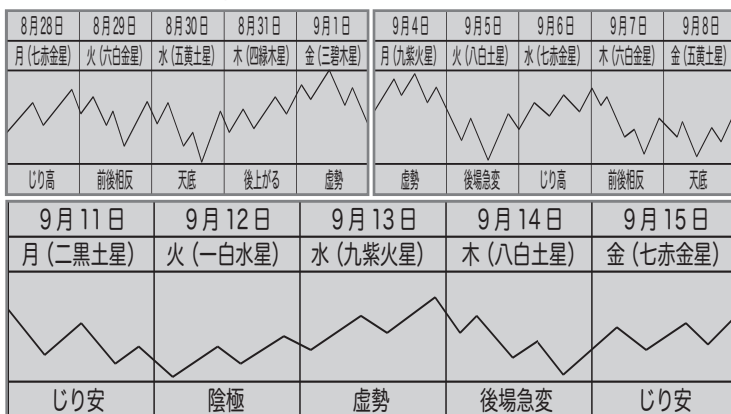
再び以前述べた懸念が強まった「これまで1年サイクルについては8月一杯まで許容範囲であると述べてきたが、今週、金曜日以降108円を割ってくるとトラブルである。1年サイクルは4月にボトムを付けたことが確認され、その天井は7月に早々と付けてしまったと考えざるを得ない。このケースではボトムを付ける来年4月前後2カ月まで下降トレンドが形成される。下値目標値は上昇幅の倍返しで101.73±0.75となる。9月以降、108円を割ってくればその答えとなろう」。

今週108円台を回復できなければ上述のシナリオが蘇る。また先週述べたもう一つの保合いパターンは下抜けとなった。即ち、「しかし厄介なのは前回述べた2014年2～8月のような保合タイプ（23週）の相場が、現在の相場でも演じられる懸念である。今週は4月安値から20週目に入る。週の引け値で115円を突破して初めて、保合い上抜けを確認しよう。目先、111円を超えて引ければ、8月29日の安値がM型トリプルボトムの完成と考えて良いだろう」。今週108円以上で引けてこなければこのシナリオも放棄すべきであろう。以上の結果は4

という新たな危機が始まった、とみなすのが妥当だと思います。厳しい時代となりました。

九星高下伝は7日から《一白水星》に入っています。

「陰極」を意味する《一白水星》。それに向けて、少なくとも9月前半はドル安株安とみておくのが素直でしょう。



とはいえ、日本の地方銀行はそれほど強烈なポジションを持つことはほとんどなかったの、勢い金融系でかつ大きなポジションを持つとなると限られていた。

欧州系、米国系、その他、本邦系と大きく分けることが出来たが、オフバランスでは欧州系、特にフランス系の金融機関が非常にアグレッシブであつたし、米国系は少なくともリーマンショックまでは非常に強いマーケットポジションを持っていた。本邦系も90年代後半の金融危機が嘘のようにこの時代はまだ危機が表面化していなかった。

したがって、金融系としては最後の信用供与がある意味モラルハザードともいえるべき緩やかな状態であった。

それでも上野の銀行は、ある程度信用供与を絞っている銀行であった。

つまり、上野の持ちたいサイズから考えれば、取引の相手は限られていたのである。

月から始まった1年サイクルが7月に天井を付け、今後ボトムを付ける時間帯（2018年4月±2カ月）まで下げが続く事を示唆する。

また金相場をモデルとしたM型ボトムのフラクタルでは先週末107円台に入ってきたことからこのシナリオも崩壊。全ては4月以降の保合いを下抜けたということになる。今後は戻り売りに方針を展開させなければならない。

前述した下値目標値は101.73±0.75だが、一気にここまで下げるとは考えていない。105～106円レベルでは一旦サポートされるレベル。今週は108円以上の戻りは売り。110円以上の引け値にはストップを設定しておきたい。



## サイクルだけ話します。

— メリマン・サイクル理論 備忘録 —

## 【第56回】NY原油のサイクルについて (6)

前回は、1998年12月21日の10.35ドルを起点とするNY原油の長期18年サイクルが、18及び54カ月移動平均の観点から、2016年2月11日の26.05ドルでボトムをつけたか否か未確認である話をしましたが、これは、サイクルの観点からも言えます。

この18年サイクルは2つの9年サイクルに分割され、第1サイクルは起点から120カ月(10年)目にあたる2008年12月19日の32.40ドルでつけましたが、そこから2016年2月11日まで86カ月しか経過しておらず、9年サイクルがボトムをつける通常の日柄(108±18カ月)よりも若干短いのです。

9年サイクルは、3つの3年サイクル(36±6カ月)に分割されるのですが、当然この第2サイクルに内包される3年サイクルも、3つのうち2つの日柄が短くなっています。しかし、現行相場は昨年9月以降に、連続して引け値で18カ月平均を上回ったので、昨年2月で第2サイクルボトムを形成し、ここから新18年サイクルが始まったと見るべきでしょう。そうであれば、今月は第1—3年サイクルの19カ月目に入っている事になります。サイクルの序盤は、常に強気です。

## メリマン通信 — 金融アストロロジーへの誘い —

## 今回の水星逆行を総括する

8月12日(日本時間13日)に始まり、同月26日(日本時間27日)の中間点(太陽・水星0度)を経て、水星逆行が終わった。

水星逆行期の相場予測が難しいのだが、特に今回の逆行は各市場バラバラの動きを見せた。逆に言えば、逆行期らしい相場であったと言える。上下の方向を問わず、各国通貨は一本調子の動きを見せ、商品はNY金が最終的に一本調子の動きとなり、原油は途中まで一本調子であったが8月末に急反騰。しかし逆行終了後は急反落している。

最も不可解な動きを見せたのが株式市場だ。米国株式は逆行開始日の週から急落急騰を繰り返す逆行期特有の“ウィップソーパターン”。逆行中間点以降は上昇基調に戻ったかと思いきや、今月1日に高値をつけて以降は小動きになっている。日経平均株価は29日に安値を更新したかと思えば、急反騰して1日に高値を形成。しかし先週末は29日安値を割り込んでいる。このパターン時は逆行シャドウ抜け場面が次の節目になりやすい。

高く仕入れて安値で投げる投資家から  
脱却してアクティブブシニアになろう！

四半世紀以上、投資の最前線で活躍してきた  
「プロ中のプロ」が語る現在の株式市場とは

- ◎マイナス金利時代に株を持続  
けて成功する秘訣を解き明かす
- ◎10倍になる株など豊富な実例  
で銘柄発掘の心得を公開！
- ◎株式投資の実践編として〈有望  
銘柄掲載〉！



## 株で資産を蓄える

～バフェットに学ぶ失敗しない長期株式投資の法則～

S・アダチ&カンパニー  
代表取締役社長

足立 眞一 著

発行：開拓社 定価：1,296円(税込み)

その後相場は今年に入りこの18カ月平均付近を推移し、6月21日に42.05ドルをつけて以降反発。ここは起点から16カ月目なので、内包する第1—ハーフサイクル(18±3カ月)ボトムであり、相場はここから第2サイクルの天井に向けて、現在1月3日の55.24ドルを試しにかかっていると予測します。

その一方で、今後この6月安値を割り込むと、この相場は2019年2月±6カ月に出現するであろう3年サイクルボトムに向けた下げ局面に入っている、という見方になるでしょう。



ただこれに関連して、先週次の通り述べた“水星逆行のシャドウ抜けは9月19～20日。実はこの時間帯よりも前の米国時間9月12～17日、日本時間13～18日に金星・土星・天王星のグランドライン(120度)が出現する。これは12～13日に発生する金星・土星ラインと17～18日に発生する金星・天王星ラインの組み合わせ。ラインは惑星間の関係が良好な状態になる事で知られる天体位相。金星は金融商品全般に関係する惑星だが、とりわけ株式との関係性が深い。“良好”は相場上昇と関連性が高いのだが、裏返せば、そこが“ピーク”となりやすい。従って、今週5日の逆行終了日で反転下落(銘柄によっては反転上昇)しなかった相場は、シャドウ抜け付近で反転する可能性がある。日本は18日が祝日なので、再来週19日の相場には注意して臨みたい”。

従って株式市場は今週いっぱい、先週末の低迷基調とは裏腹に上昇する可能性がある。しかしこの見立てが崩れ、下げ場面が続くようなら、恐らく今月27日(日本時間28日)に発生する木星・天王星オポジション(180度)付近で次の節目が到来するのではないかと筆者は見ている。

## WEBサイトより一足早く、1週間分まとめ読み！！

## 今週のアストロロジー info

- 9月11日(月) 気迷い 狭いレンジの逆張り
- 9月12日(火) 何もしないことが吉
- 9月13日(水) 月末に向けトレンド発生
- 9月14日(木) 太陽・土星90度 乱高下模様
- 9月15日(金) 引き続き乱高下
- 9月16日(土) ツキが離れたら、小さな勝利で勝ち癖をつける
- 9月17日(日) 天底狙いの仕掛けは捨て玉のつもりで

2017年  
夏季勉強会  
DVD

**フォーキャストのその先へ**  
遠方で越えただけななかったお客様のために、毎年恒例7月勉強会を録画し、DVDで販売いたします。  
税務のプロによる、投資家が避けては通れない「相続」に関する話を第1部で、四半期ごとに分析している  
ドル、ユーロ、円の動き、日本株式市場や金価格の現状と今後の展開については第2部でお話しています。

講師	＜第1部＞ あらためて知っておきたい 「相続」の話 税理士 西村 侯政氏	収録時間	第1部 76分 第2部 117分
	＜第2部＞ 2017年 第3四半期の各種相場分析 株式会社投資日報社 代表取締役 鈴木 高明	価格	10,800円(税込) *WEB限定価格(新規購入には「会員登録」が必要です) 【特典1】勉強会当日に配布した資料 【特典2】10月勉強会特別価格ご参加権 14,040円→10,800円
<input type="checkbox"/> 詳細・お申し込みはこちらから (株)投資日報社 電話：03-3669-0278 <a href="http://www.toushinippou.co.jp/">http://www.toushinippou.co.jp/</a> 東京都中央区日本橋人形町3-12-11GRANDE人形町6階 <Category>内の【DVD・CD】からお申し込みください			